

平成30年8月22日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス  
代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢  
(コード2388 東証 J A S D A Q 市場)  
問合せ先 開示担当 小竹 康博  
(TEL 03-6225-2207)

### グループ・リースが2018年第2四半期決算を発表 2017年財務諸表を訂正、3四半期連続で増益

当社の重要な子会社でありますSET(タイ証券取引所)上場のDigital Finance会社Group Lease PCL(以下GL)は、同社がSETに開示した2018年第2四半期決算の内容についてプレスリリースを公表いたしましたので、日本語にてご紹介いたします。

(以下、GL社公表のプレスリリースの翻訳)

Group Lease Public Company Limited(以下、GL)が発表した2018年第2四半期業績は、収入が729.01百万バーツ、純利益が125.98百万バーツ。2017年第3四半期に引当金を設定後、3四半期連続で増益となっており、四半期ごとに利益は成長しています。

GLの最高財務責任者(CFO)であるアラン・ショーン・パスカル・ドゥフェス氏は、同社の2018年第2四半期の純利益が125.98百万バーツで、3四半期連続で増益となったことを明らかにしました。収入は、前四半期比25.9百万バーツ増(+4%)となりました。一方サービス・営業経費は前四半期比14.5百万バーツ減(-4%)となり、その結果純利益が18%増となりました(106.53百万バーツから125.987百万バーツに増加)。営業利益は、106.41百万バーツから134.69百万バーツと、27%増加しました。

GLの最高経営責任者(CEO)である此下竜矢氏は、次のように語りました。「当社は、証券取引委員会からの要請書に基づき、2017年財務諸表を訂正いたしました。2017年第3四半期に貸倒引当金を計上したため、2017年株主資本に変更はなく、純利益が増加(純損失が減少)しました。当社としましては、SECおよび関連当局と協力し、適切且つ良好なコーポレート・ガバナンスを維持するべく、透明・明確な経営に取り組んでいく所存です。」

「当社は以前、将来に向けた成長持続のために2018年は収益性の向上と事業の強化を目指すとお約束いたしました。当四半期は、この方針に基づき事業に取り組みました結果、事業の規模に著しい成長は見られなかったものの、収益性を向上することができました。当社は、安定した成長をもたらす事業に努めることを明言いたします。経営面では、今後の成長を持続させる基盤強化のため

に、ポートフォリオの質の向上、業務の改善に重点を置いています。当四半期業績からわかりますように、営業利益は106.41百万バーツから134.69百万バーツと、前四半期比27%増加しております。」

「海外各国の事業についても、第2四半期は引き続き増益となっています。特にミャンマーとタイの事業は、当社の利益構築に貢献しています。当社はミャンマーでの新規顧客基盤拡大を計画しています。NPL率がまだまだ低いからです。その他の国では、ポートフォリオの質向上を重視しています。競争の激化と家計債務増加が背景にあります。ラオスの事業に関しては、成長率を維持できるとみています。カンボジアの事業については、競争やマクロ経済的要因のため、保守的な方針を続けます。タイの事業に関しては、小幅な成長を見込んでいます。ポートフォリオの質は向上していますが、貸付により慎重になることを意識しているからです。インドネシアに関しては、ミャンマーのマイクロファイナンス事業と同様の成長が見られます。いずれにしましても、将来の事業拡大について、当社は各国の投資を増加する前に、周到な策をたて、良いタイミングを見計らって取り組んでいきます。」

以 上